

イソギク *Chrysanthemum pacificum* Nakai

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。本州中部の太平洋岸に分布する植物で、愛知県は分布域の西限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は叢生し、通常高さ 30~50cm だが愛知県のは 90~120cm、先端部に密に葉をつける。葉は楕円形~倒卵形、長さ 3~12mm の柄があり、葉身は長さ 3.5~5cm、幅 2~2.5cm、基部はくさび形、上部は浅く羽裂し、先端は鈍頭、質は厚く、表面は深緑色、裏面は密毛があつて銀白色となる。花期は 11 月、頭花は茎の先端に多数集まってつき、黄色で直径 5~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部 (芹沢 81164, 2006-11-25)。1 カ所に小群落がある。

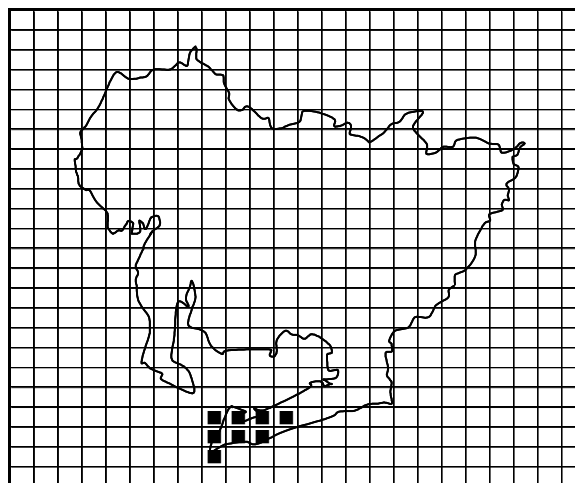
【国内の分布】

本州中部 (千葉県~愛知県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境/生態的特性】

海岸の崖地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況/減少の要因】

太平洋に面した泥質の崖地に少数個体が生育している。崖地の崩落によって失われる可能性がある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。表浜海岸は浸食防止や観光開発のためにさまざまな工事が行われているので、その際にも特に注意が必要である。

【特記事項】

現地では隣接して、栽培ギクとの雑種と推定される植物も生育している (標本：芹沢 81165)。紀伊半島には近縁のキノクニシオギク *C. shiwogiku* Kitam. var. *kinokuniense* Shimotomai et Kitam. が生育している。

【関連文献】

保草本 I p.72, 平草本III p.203, 平新版 5 p.336.